

保育・教育の価値とリスク、深刻事故予防

保育の安全研究・教育センター
掛札逸美 (心理学博士)

★センターのウェブサイト:「保育の安全」で検索 <https://daycaresafety.org/>

★Facebook: 上のサイトの一番上にリンク

- ・各種の安全、リスク、コミュニケーションについては、ウェブサイトを
- ・新型コロナウイルス感染症等の最新情報、動画配信は Facebook を (毎日更新)

本来、「リスク」は悪いもの
ではありません。

リスクはほぼ常に、「価値」と
の天秤の上で考えます。この天
秤を頭の中に置いておく訓練が、
第一歩です。

感染症の流行や死亡事故には
価値などない。そうかもしれま
せん。でも、「保育・教育」とい
う文脈で考えてください。「子ど
もが集団で過ごす」「保護者の就
労を支援する」という価値は、
常にあります。

では、0歳児も長時間、預かる
べき? コロナ下でも全員、預か
るべき? 現状が「真の価値の形」
だと想定する必要はありません。

リスク・マネジメント≠ケガや事故をなくす (★A-1)

- ・リスクとは「**目的に対する不確かさの影響**」(ISO31000:2009)
不確かさには、マイナスだけでなく、プラスの側面もある
- ・保育や教育、子育ての世界では、リスク(不確かさの影響)
が良い方向へ乖離することも想定しているはず(例:頑張っ
て、予想以上にできるようになった!)。そのための環境(物的・
人的)をどこまで提供するかが、**園/法人の価値**を決める
- ・園/法人の **価値とリスクのバランス** を常に検討・調整しな
がら前進=**リスク・マネジメント**

〔安全の世界では、「不確かさ」のマイナスの部分のみを
取り上げる(「リスク」の定義は業界によって異なる)〕

もっとも広い意味での リスク・マネジメント

価値とリスクは、常に天秤の上
= 活動のほぼすべてはこちら

ケガやケンカ等 = 育ちと学び

「活動として適切でないもの」を
明確に見分ける = 質向上



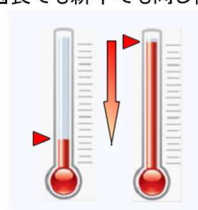
★A-1、1-8

安全における狭い意味での リスク・マネジメント = リスク・コントロール(管理、制御)

価値が(ほぼ)存在しない(安全、
健康)。ゼロに近づける努力

感染症の流行、死亡・深刻事故

予防と事後対応の行動をする
(園長でも新卒でも同じ行動)



★「安全に関するトピックス」の各項目
★『子どもの命の守り方』(エイデル)

子どものケガは？ ケガをさせたら園のせい？ いいえ、子どもの育ちにとって、「ケガをするようなできごと（転ぶ、つまづく、すべる、ぶつかる、落ちる等）」は不可欠です。

誤った考え方「ケガになったから、これは間違っていた」

誤った考え方「ケガにならなかったから、このできごとは起きてOK」

適切な考え方「これは保育・教育として適切な状態で起きたのだから、ケガが起きててもそれは、園がいけなかったわけではない」（ケガそのものについては謝罪しても、できごとについては謝罪しない）

適切な考え方「これは保育・教育として不適切なできごと（または）子どもの育ちに合わないことをしたのだから、ケガになってもならなくても関係ない。報告して具体的に検討する。

★参考資料：センターのサイト（「保育の安全」で検索）→「安全のトピックス」
→ 1-10と6-1。及び、「コミュニケーションのトピックス」→A-1の
一番下のほうに置いてある『保育ナビ』2019年8月号の記事。

※ケガにつながるできごとでも、「はさむ」「刺す」「切る」等は別（上の1-10）。

深刻な結果につながるできごと

息ができないできごと、食物アレルギー（誤食）、交通事故、取り残しや置き去り、敷地外へ出てしまう等。深刻な結果につながる確率は低いですが、できごとは頻発する。

息ができないできごと

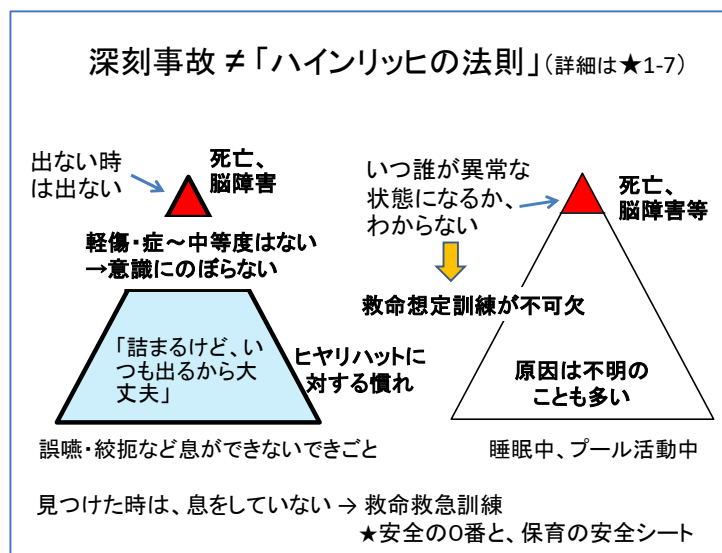
（見ていない状況下が危険）

- ・絞扼（喉の部分がひっかかる）
- ・溺水
- ・口や鼻が布などでふさがれる

（目の前でも起こる）

- ・誤嚥窒息

睡眠中の死亡、プール活動中の死亡は「息ができないできごと」？



★参考資料：センターのサイト（「保育の安全」で検索）→「安全のトピックス」→ 1-10（ケガと息ができないできごとの違い）、6-1（頭部と腹部のケガ）、1-7（息ができないできごとの間の違い。プールや睡眠中の死亡との違い）。1-6（人数確認等の指差し声出し確認）

園(おとな)の責任?

- ・熱中症を含む災害は100%、おとなの責任(地震直後に建物倒壊という場合は例外かも)
- ・睡眠中の死亡、食事時の誤嚥窒息は、予防と事故後対応で「おとながすべきことをしていたか」どうか。
- ・目を離して、時間が経ってしまい、命にかかわったら、100%、おとなの責任。

「価値」と「リスク」は変化する(★A-1, 2, 3)

- ・20年前、10年前、5年前の、価値とリスクのバランスのまま考えていたら、今の保育運営はできない
- ・保護者が変わり、保育をとりまく状況が変わり、子どもが変わり、地球環境も変わり...。価値とリスクのバランスは、昨年とすら異なる
- ・20年前以前、園が「よかれ」と思っていたことで子どもに重大な結果が起きてても...? 今は?(裁判、書類送検、検証等)
- ・変化は嘆くべきこと? いいえ、園の価値とリスクを明確に保護者に伝え、できないことは「できない」と言い、「どうしますか?」と保護者に問える時代になっただけ。一人よがりな「よかれ」は通用しないのだから、する必要もない

- ・ケガは、「保育・教育として適切だったかどうか」
 - ・繰り返す深刻事故(例:プールで監視がおらずに死亡。うつぶせ寝、睡眠チェックをせずにいて0~1歳児が死亡)は、社会的責任が重くなっている。
- ★参考資料:センターのサイト(「保育の安全」で検索)→「安全のトピックス」→8のすべての項目(熱中症、災害)、1-7、1-10、6-1など。

できないことを「できる」と考えたり、「できる」と伝えたりするのは無責任

2019年5月8日、大津市で起きた交通事故後、保育園の先生たちが「あのような交通事故はどうしたら予防できるか」と考え始めてしまったため。

★「安全のトピックス」→6-3

これは、園として「価値」と「リスク」の天秤がどちらに傾いているか?

園として責任を負うべきことか? はい/いいえ

誰か責任を負うべき人がいるのでは? 組織があるのでは?

例)

- ・葉山町の5歳児の死亡:「大丈夫だろう」と病院を受診しなかった。
→受診することで、医師に「大丈夫かどうか」という判断の責任を渡せる。

★参考資料:センターのサイトの「役立つリンク」の冒頭にある検証報告書

- ・ 大津市の交通事故：車が運転者の失敗で突っ込んできたら、歩行者、自転車にできることは何もない。
→ 運転者の責任。交通システムを作っている自治体の責任（標識、信号方法等）

では、新型コロナウイルス感染症流行下の状況をどう解釈するか。

- ・ 「価値」と「リスク」の天秤は？
- ・ 園が負うべき責任範囲は？ 開園は園の責任か？
- ・ 保護者が負うべき責任範囲は？
- ・ 社会（国、自治体）が負うべき責任範囲は？

…これらの線引きをもとに、自園の次の行動、保護者とのかかわりをつくる。

★万が一のために慌てない、救急の練習！

センターのウェブサイト→安全のトピックス→ゼロ番と「保育の安全シート」

★先生たちの心を守る

『保育者のための心の仕組みを知る本』ぎょうせい（ぎょうせいのウェブサイトから、デジタル版も購入できます）

★コロナに加えて、台風等の災害、その後はインフルエンザ、新年度の取り組み等

Facebook ページをご覧ください。これまでの主な内容も目次からご覧いただけます。